

Think globally, Act locally

Watch football from the seat, Play football on the pitch

> 報告レポートからの編集 池谷 孝 2012. 4. 20

「1点目はスペイン選手の勝負に対する執着心でした」

静岡選抜がリードするとそれまでのポゼッションのパスが ゴールに向かい始めました。とにかくくさびのパスが入り全 員の攻撃にスイッチが入りました。

奪われた後の守備への切り替えの速さと最後まであきらめない姿勢には本当に驚かされました。静岡の選手がシュート体勢になっても体を当ててバランスを崩そうとする姿勢やスライディングでボールに少しでも当たりシュートの精度を落とさせることやシュートを打たれた後もゴールの中までカバーリングしてクリアーされた場面が数多くありました。

「2点目はパススピードの速さと正確なキックです」

アトレチコマドリとの試合は目が覚める衝撃的なものとなりました。当たり前のことが当たり前にできるのです。プレッシャーの中でもUー15くらいのパススピードがあったと思います。

パスミスも静岡と比べると半分くらいです。この差は日頃のトレーニングの意識レベルの差だと思いました。

「3点目は判断の速さでした。ボールが来る前の準備がすばらしいのです」

スペインのサッカーはレベルが上がるほどパスサッカーになると思いますが、ボールが来る前に状況を見て判断ができているのでワンタッチやツータッチでDFから中盤の逆サイドまでボールが早く動くのです。スリータッチする時は判断を変えるタッチでありミスを起こさないための判断でした。

彼らのパススピードと判断のはやさの前に前線からのパスコースの限定ができずに自陣で相手のミスを待つ戦いをせざるを得ませんでした。

附「スペインサッカー協会のサッカースクールの最高責任者エドワルドさんから一番最初に指摘されたことは、1対1の時の手の使い方が下手なこととへディングが下手なことです」

デモンストレーションで相手のおなかあたりをしっかりつかんで相手の自由を奪うことを伝えてくれました。

アトレチコとの試合では1対1やボールを受ける時の 手の使い方はボールを失わないか失うかということに 直接的に影響を与えました。 「個々のボールタッチに関しては、この年齢としては高いレベルの選手が多いと感じた。しかし、グループのトレーニングになるとこれが多くなり攻守が頻繁にかわってしまう。そのことはもちろんゲームでも同様で、シュートで終わる攻撃がどうしても少なくなってしまう。私なりの分析では、ボールを受けたら何をしよう、自分以外の味方にボールが渡ったら何をすべきか?ということの重要性を感じた。

周りを観て考えるということをこの年齢の時期に身に付けること は大変重要であると私は感じた。」

「どこでどういう身体の向きでボールを受けたらよいか、どこにボールをコントロールするか、次のプレーを考えるためにはまず何をしなければならないか。それは周りを観ることであり、ゲーム中にボールにプレーしない時間が圧倒的に多いことを考えると、ボールのないその時間にいかにして相手より有利にサッカーをやろうかと考え実行に移す能力が大切であるかが理解できるはずである。」

Think about

「子どもたちの技術」の課題は

「競争力」を育てる(competitive)には

「判断」をトレーニングでどう解釈し扱うか

「達成感」を与えるには

「結果」の意味

M-T-BM分析改善可能なものについて熟考する伝える、変える

